

誠実に一生懸命!

直心

題字:長泉寺住職 後藤佑芳氏

県政だより

第40号(2012年5月)

静岡県議会議員

あつみ泰一



新年度に向かって!

昨年度は、東日本大震災による想像を絶する未曾有の被害に、国じゅうが愕然としてしまった。そして被災地復興と今後の地震・津波対策に、国も地域も対応を迫られた。更に、福島第一原発の事故は、「まさかこの日本が…」という我が国の「技術の高さ」と「安全の信頼性」が裏切られる事態を招き、私たち国民の自信は大きく減退してしまったかに思える。しかし、このような状況にあって当の被災地の皆さんは、さすがは東北の人。元気を失ってはいない。肉親や知人を亡くし、財産全てを失った悲しみを必死で乗り越え、明日に向かって頑張る姿に、むしろ私たちの方が元気を戴く。津波・原発対策をはじめ、静岡県に突き付けられた課題は多い。これらにしっかりと答えが出せる様、本年度も全力で取り組んでまいります。

渥美泰一

平成24年度当初予算 1兆1,306億円 対前年当初比△18億円(△0.2%)
※国基金事業を除けば176億円の増(+6%)

予算編成のポイント

平成24年度の県税と地方交付税を合わせた一般財源総額は前年度とほぼ同額を見込んでいる。一方で、高齢者医療など社会保障関係費が増加することなどから、政策的経費に充てられる財源は極めて限られる厳しいものとなった。予算編成に当たり、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」の早期実現を目指し、5分野に重点化した。

重点1.雇用対策 438億8,900万円

平成25年度までに3万人の新たな雇用を創造します。

新エネルギー、環境、観光、医療、健康、農林水産、航空宇宙など成長分野の産業の育成と資金調達支援。
雇用のマッチングや職業訓練による人材育成。

重点2.少子化対策 122億6,000万円

安心して産み育てられる環境を整備します。

妊娠期における相談支援体制を充実する。
子育て支援活動団体のネットワーク化と助成。
通院医療費助成を中学3年生まで拡大。

重点3.地震・津波対策 236億1,400万円

県民の安心・安全を守るため、地震・津波対策を強化します。

津波対策アクションプログラム(短期対策)の前倒し実施。
3連動地震による被害想定を踏まえた中長期対策の早期策定。

重点4.エネルギーの地産地消への取組み 20億6,600万円

太陽光の新エネルギー等の導入を加速します。

事業所への太陽光発電設備の導入支援制度を追加し、住宅用太陽熱利用設備も助成対象。
農業用水路を利用した小水力発電導入への支援。
新エネ、省エネ設備導入の事業者への資金支援。

重点5.内陸フロンティアの魅力ある地域づくり 41億200万円

新東名の開通に加え、中部横断自動車道や三遠南信自動車道の整備により、内陸部の発展の可能性が高まってきました。

新東名インターチェンジ周辺の工業用地開発。
新東名を利用した観光交流の促進。

副知事の3人体制の議案を否決!

3月16日の本会議において、知事から提出された、現副知事1名に2名を新任し、3人体制とする議案を、議長除く自民党会派37名全員の反対で否決した。人事案件は知事の専決事項であり、今回のことは県政史上初めての出来事となった。

反対の理由は、本庁部長級職員を増やし、その上で1人当たり3,200万円の経費がかかる副知事3人体制は行革に逆行すること。3人体制の必要性に対し、知事から明確な答弁がないこと。

更にはこうした理由と併せ、今回のことを含め重要な案件を、議会や職員に何ら相談もなしに独断先行する川勝知事の行政手法に、0警鐘を鳴らす意味がありました。

新副知事2名が就任しました。

4月18日の臨時議会において、先の本会議において否決した副知事選任案件を全員一致で可決した。この結果、新副知事に森山誠二氏、大須賀淑郎氏の2名が就任した。

両副知事におかれては、川勝知事の補佐役として県政の活性化と円滑な運営にご尽力願いたい。

3月28日 国道152号バイパス開通

4月14日 新東名開通

開通した国道152号バイパス浜北～天竜工区は、平成3年に着工し、実に20年の長きにわたる工事でした。この間、数々の困難もあった。特に遠州鉄道芝本駅南側の高架事業では、地権者の意向により設計が二転三転し、アクセス道路として新東名の開通に間に合わなくなるのではないかと危ぶまれた。そこで笠井街道の浜北大橋通りから北側を、東名のアクセス道路として早期に整備したという経緯もあった。また忘れてならないことは、152号バイパスと新東名の建設によって、多くの方々が住み慣れた土地からの移転を余儀なくされたこと。自治会・町内会が東西に、あるいは南北に分断されてしまったことなど。こうしたことへの地域の皆さんの理解があったればこそその開通であり、感慨ひとしおである。

今後は152号バイパスの天竜以北への延伸と、完成した道路沿線土地の有効利用に取り組めます。

新東名は山間部間を通るため、トンネルや橋梁部分が多いが、道路幅が広くカーブや勾配もゆるく快適で安全な走行を楽しめる。

本県は、日本の中央に位置する地理的優位性に加え、この新東名や従来の東名高速の東西軸、中部横断自動車道、三遠南信自動車道などの南北軸による道路網と、富士山静岡空港や駿河湾港による陸・海・空の交通機能を活かした全国の物流拠点を目指すべきである。

浜松・浜北インターチェンジ周辺整備と企業立地に取組んでいきます。



県政トピックス

最大震度と津波高が発表されました。 浜北区は震度7

3月31日、国は南海トラフの巨大地震による最大クラスの震度分布、津波高を公表した。富士川河口断層帯から九州の日向灘までを想定する震源域とし推計した。その結果、震度7は県内23市区町におよぶ。本県では、県内全域で震度7を目標震度として建物の耐震化を進めており、問題はないと思われる。

津波高は御前崎市が21.0m。浜岡原発が、現在建設している防波堤は高さ18mであり、今後の対応が求められる。県では今後、国の計算結果と整合を図りながら、次なる第4次地震被害想定を来年6月を目標に策定する。

ガレキ処理はみんなで分かち合うべきです。

東日本大震災から1年以上もたった今でも、ガレキ処理は宮城県、岩手県で10%も進んでいません。当初572もの地方自治体が、ガレキ処理の受け入れを表明したが、住民の反対にあい断念したところが多い。

『受け入れるガレキは安全が確認されたものであり、処理経費は国が負担』川勝知事は、支援する岩手県のガレキ処理受け入れを表明し、市町に協力を依頼。島田市は既に受け入れを開始している。

“街頭演説で理解を訴えました”自民党は全国で、ガレキ処理に対する住民の理解を得るための運動を行っている。私も3月24日、塩谷立代議員とともに、浜松駅前にて街頭演説で皆さんに訴えました。東海地震の切迫性が高まっている静岡県としては「明日は我が身」です。

静岡県もガレキ処理場の確保が必要です。

東海地震の30年以内の発生率は88%と云われている。県としては東中西各地区毎に一定規模の土地を確保する必要がある。県は市町と連携して土地の選定を進めるべきです。

教育委員会改革に取り組めます。

「教育行政のあり方検討委員会」を設置し、教育委員会制度の存在意義やあり方について、外部有識者から意見を聴く。委員会開催は公開で行い、県民からも広く意見を聴くこととしている。

県立高校の再編整備が進みます。

県立高等学校再編整備計画に基づき、静岡地区は平成25年度、天竜地区二俣高校と天竜林業高校の統合は平成26年度、引佐地区三ヶ日高校と引佐高校と気賀高校の統合は平成27年度の開校を目指す。将来を見据え、教育内容と運営の在り方を見直すことが必要です。

未来を拓く新産業を支援し、企業立地を進めます。

「先端医療産業集積プロジェクト」の進展により、本県の医薬品・医療機器の生産金額は全国第1位となった。これをさらに発展させるため「先端医療特区」を国に申請し指定を受けた。今後は、世界レベルの革新的がん診断装置の開発や、地域企業の医療・健康産業への参入などへの支援を強力に進める。

また県は、私がかねてより提案していた今後発展が見込まれる電気自動車や航空宇宙、エネルギーなどへの試作品開発や販路開拓へ、一貫した支援を行うこととした。

また本県への企業立地を進めるため、成長産業として期待できる環境関連、医薬品・医療機器関連、物流関連産業を中心に企業を訪問し、本県の優位性をPRする。また、私が県に提案していた成長産業分野に対する補助率引き上げを行なう。

富士山静岡空港の利用拡大に取り組んでいます。

平成23年度の利用者数は41万人で、東日本大震災の影響から前年度を14万人下回った。しかし、このところ9ヶ月連続で搭乗率60%を上回り、東日本大震災の影響も回復し、安定した利用が見込まれつつある。

- チャイナエアライン:3月25日から静岡—台北間週3便就航
 - 中国南方航空:3月から静岡—中国湖南省長沙間でチャーター便連続運航を開始
 - アジアナ航空:3月に静岡—釜山間で毎週3便の連続チャーター運航を実施した
- 今後とも、着陸料の軽減やローコスト航空の誘致等により新規路線の就航や増便を働きかけ、一層の利用拡大を図ります。

富士山の世界文化遺産登録を目指して。

今年1月27日に、国から「富士山世界遺産登録推薦書」がユネスコに提出された。今後ユネスコの諮問機関ICOMOSの現地調査において、富士山の価値と保存管理の取り組み状況をしっかり説明し、来年の登録を目指し、国を挙げて万全を期さなければなりません。遺産登録により、本県の一層の観光振興につなげたい。

草薙運動場をリニューアルします。

硬式野球場の外野スタンドを改修し、併せて新たに室内練習場を来年度までに整備し、プロ野球公式戦やキャンプを誘致する。体育館の建替えを平成27年春までに完了させ、本県屋内スポーツの中心施設とする。

桐郷市人民対外友好協会と友好提携を締結しました。

浜北日中友好協会が設立20周年を迎えた。4月13日、浜北日中友好協会は、平成9年から交流を続けてきた浙江省嘉興市桐郷市との交流を一層進めるため、桐郷市人民対外友好協会と、協会同士の友好提携を結んだ。

桐郷市友好協会の呉炳泉会長は桐郷市の副市長であり、中国は民間交流と言っても行政が主体である。従って日本のように民間主体とは力が違う。

日本も中国との交流の場合は、行政が民間と連携をもって一体となって取り組む必要がある。

浜北日中友好協会は今後、青少年交流に留まらず、観光、経済、文化など幅広い交流を実現して行きます。

8月21日～25日(予定)、杭州市、桐郷市へ訪問団を派遣する予定です。



浙江省友好提携30周年を迎えました。

杭州市蕭山空港から富士山静岡空港へチャーター便就航

今年度、静岡県と中国浙江省との友好提携30周年を迎え、両県省においてさまざまな記念行事が行なわれる。

4月4日、浙江省長夏宝龍氏を団長とする訪問団580名余が、杭州市蕭山空港から富士山静岡空港へのチャーター便等で来静した。一般人を含めた、これだけの規模の訪問団は初めて。私は、静岡県日中友好協会会長として、2日間に亘る公式行事に参加した。

この30周年を機に、一層の交流促進をしていかなければならない。これからは幅広く、そして人対人の深い付き合いをして、互いに相手を理解することが必要です。それには市町をはじめ、様々な分野毎に友好提携を結ぶことが有効的だと思います。4月6日には浜松市と杭州市との友好提携が結ばれました。正に日中交流は新しい時代を迎えています。



静岡県議会議員 あつみ泰一事務所

〒434-0027 浜松市浜北区油一色132-1
TEL.053-585-1313
FAX.053-586-6155

私の県政活動をご覧いただけます県政へのご意見をお寄せください。
ホームページ ■ <http://www2.wbs.ne.jp/~atsumi-t/>
Eメール ■ atsumi-t@mail.wbs.ne.jp

「あつみ泰一携帯サイト」を開設しました。

携帯カメラでQRコードを撮っていただければ、あつみ泰一のサイトにアクセスできます。是非メール会員登録をお願いします。ホットな話題をお送りします。

